



©長瀬町

長瀬町小中一貫教育検討委員会の第2回会議を開催しました

長瀬町小中一貫教育検討委員会の第2回会議を令和6年8月29日（木）に開催しました。今回の会議では、第一小学校と中学校において実施した劣化状況調査の結果と7月から8月にかけて実施したアンケート調査の集計結果を報告しました。

学校施設の劣化状況については、下表のとおりでした。総じて、建物自体はきれいに保たれて

いるものの、建築してから50年程度経過する建物が多くて全体的に劣化が進んでいること、部分的にき裂や損傷、塗装の剥離、剥落が見られること等が報告されました。

・学校施設の劣化状況等について

施設名	建物名	構造	建築年数	経過年数	屋根屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度(100点)
第一小学校	校舎	RC造	1977	47	C	C	C	C	C	40
	体育館	RC造	1978	46	B	C	C	C	C	43
中学校	校舎	RC造	1972	52	B	B	C	C	C	53
	技術棟	RC造	1979	45	B	D	D	C	C	23
	体育館	RC造	1970	54	B	B	C	C	C	53
	剣道場	SRC造	1984	40	B	B	C	C	C	53
	卓球場	木造	1995	29	B	B	B	B	B	75

■構造
RC造:鉄筋コンクリート造
SRC造:鉄骨鉄筋コンクリート造

■屋根・屋上、外壁の評価基準
A:概ね良好
B:部分的に劣化
C:広範囲に劣化
D:早急に対応する必要がある

■内部仕上り、電気・機械設備の評価基準
A:20年未満
B:20年~40年
C:40年以上
D:経過年数に関わらず著しい劣化事象がある

アンケート調査の集計結果については、

- ・回収率が37.0パーセント（令和6年8月2日時点）だった。
- ・小中一貫教育の基本形態として「義務教育学校」と「小中一貫型小・中学校」があることを約6割の住民が知らなかった。
- ・約半数の住民が小学校と中学校がひとつの校舎で一貫教育に取り組んだほうが良いと回答した。
- ・施設の建て替えよりも現在の校舎を改修して使用したほうが良いという回答が若干多かった。年代別に見ると40歳代までは「建て替え」の意向が高く、50歳代以降で「改修」の意向が高い傾向が見られたほか、「コストを考慮して検討すべき」や「避難所の機能を兼ね備えた施設として建替えるべき」との意見があった。

こと等が報告されました。

これらの報告を受け、委員からは、小学校と中学校の校舎等は1箇所に集約した方が良い、財政的に問題が無いのであれば校舎等は建て替えた方が良い、といった意見が多く聞かれました。

※この検討委員会だよりは、小中一貫教育の検討状況等について、町民の皆さまにお知らせするために発行しています。会議資料等については、町ホームページをご覧ください。

検討委員会事務局（長瀬町教育委員会）



町HP二次元コード



©長瀬町

小中一貫教育検討に係るワークショップを開催しました

小中一貫教育検討に係るワークショップの第1回目を令和6年9月25日（水）に開催しました。

ワークショップには、小・中学校の保護者や先生など14名の方に参加いただき、3つのグループに分かれて、校舎等を新設するとした場合を想定した施設の配置計画等を検討しました。ワークショップの最後には、各グループで作成した施設の配置計画とその考え方等を発表していただきました。

12月5日（木）に開催される第2回目には、第1回目に作成した配置計画等に基づき、具体的なモデルを検討する予定です。



小中一貫教育に関する質問にお答えします

小中一貫教育の検討にあたって、よくいただく質問にお答えします。

Q. 小中一貫教育とはどのような教育ですか？

A. 小・中学校の教職員が目指す子ども像を共有するとともに、9年間を通じたカリキュラムを編成し、切れ目なく児童生徒の育成に取り組む教育です。

Q. 小中一貫教育のメリットは何ですか？

A. 小中一貫教育を実施している市町村に対して文部科学省が実施した調査によれば、「いわゆる「中1ギャップ」が緩和された」、「中学校への進学に不安を感じる児童が減少した」、「小・中学校の教職員間で協力して指導にあたる意識が高まった」、「上級生が下級生の手本となろうとする意識が高まった」等の成果があったとされています。

Q. 小中一貫教育の導入で学習の内容は変わるのですか？

A. 基本的に学習内容の変更はありません。学習指導要領の内容に沿った学習を行っていきます。



※小中一貫教育について、わからないことや不明な点がありましたら、教育委員会にお問い合わせください。

長瀬町教育委員会 教育総務担当 ☎0494-66-3111